

1 自己評価結果等

<p>本年度の重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道德教育の推進</li> <li>・ 児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた、きめ細やかな教育活動</li> <li>・ 保護者及び地域のニーズを踏まえた積極的な情報発信</li> <li>・ 校内及び地域における特別支援教育を推進していくための教員の専門性の向上</li> <li>・ 南海トラフ地震を想定した具体的(現実的)な対応策の検証(保護者との連携)</li> </ul>			
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価と課題</p>	
<p>小学部</p>	<p>きめ細やかな教育活動</p>	<p>円滑な人間関係やコミュニケーション能力の向上及び定着</p>	<p>児童の発達段階及び障害特性に応じて、挨拶や身の回りの人との関わり方、要求や報告などのコミュニケーション能力の育成を学校生活全般を通して指導・支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年会や日々の話し合いの中で児童の情報を共有し、身振りや絵カードの使用など、発達段階及び障害特性に応じて、コミュニケーション能力の育成に向けた指導を継続して行うことができた。個々の取組を次年度に引き継いでいけるようにする。</li> <li>・ 職員へのアンケートでは、ほぼ全ての職員が児童のコミュニケーション能力の育成の重要性を意識して指導を行っているという回答を得た。今後も、職員間で、具体的な支援のあり方について共有していく。</li> <li>・ 職員へのアンケートにおいて、児童が困ったときに言葉や絵カード等で知らせたり、挨拶を進んでしたりすることができるようになったなど、児童の成長を感じられたとの回答を8割の職員から得た。今後さらに児童の人間関係やコミュニケーション能力の向上や定着を推進していくための指導・支援を行っていく。</li> <li>・ 部集会で、児童が人との関わり方で日頃取り組んでいる様子やできるようになったことなどを紹介する機会を設けたところ、他の児童や職員から褒められ喜ぶ児童が多く見られた。今年度は一部の児童の紹介にとどまったため、今後も児童の自己肯定感を高めていく活動を続けていく。</li> </ul>
<p>中学部</p>	<p>激甚災害への対策</p>	<p>防災意識の向上</p>	<p>災害や被災時に想定される生活について映像や防災用品等を活用した学習をする。 引き渡し訓練に合わせて本校の備蓄食を実際に作り、喫食する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練や生活単元学習等で実施した防災に係る学習内容を学年だより等に掲載し、情報の共有化を図るとともに防災意識や災害に対する危機意識を高めた。また、被災時の生活を想定して、段ボールベッドや簡易トイレ、食器具等の防災グッズを作り、実際に使用することで不便さを体験することができた。今後も、生徒が具体的な活動を通して防災への意識が高められるようにしていく。</li> <li>・ 備蓄食の喫食体験を行い、約7割の生徒が半分以下の喫食状況であった。それを踏まえ、米や麺、パンなどの市販の非常食の試食体験をしたところ、生徒には好評で抵抗感なく食べられることが分かった。本年度の取組を踏まえ、児童生徒が安心して食べられる備蓄食の検討を生活指導部と連携して進めていく。</li> </ul>
<p>高等部</p>	<p>発達段階に応じた教育活動</p>	<p>生徒の発達段階及び障害特性に応じた交流及び共同学習の推進</p>	<p>学校間交流を中心に、地域の集団の中で交流及び共同学習に取り組む。 生徒及び職員等、関係者へのアンケートを実施し、交流及び共同学習の在り方を整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流及び共同学習での活動内容を特別の教科道徳指導段階表(大府もちのき版)を用いて分類した。</li> <li>・ 東海樟風高校との交流及び共同学習では、多くの生徒が交流に前向きに取り組み、積極的にコミュニケーションを取ろうとするなど主体的な学校間交流を行うことができた。今後、両校での連絡調整をさらに進め、よりよい活動を計画していく。</li> <li>・ 学校間交流については、両校の教師から、「生徒の新たな一面が発見できた。」等の意見が上がっており教育的効果の高さを感じられた。学校間交流の在り方については、対象学年の設定や実施時期、交流内容について今後の検討課題もあり次年度に向け、持続可能な方法を両校で調整していく。</li> </ul>
<p>総務部</p>	<p>積極的な情報発信</p>	<p>保護者ニーズを踏まえた情報発信</p>	<p>学校だよりやもちのきPTA便り、メール等を活用し、様々な児童生徒やPTA活動の取組を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の行事に合わせ、各号の担当学年の調整を行ったことで、各学年の取り組んだ内容を学校だよりで発信することができた。</li> <li>・ 保護者の要望を踏まえ、給食試食会を役員のみと一般応募の2回企画し、1月に施設等見学会を行った。どちらも好評であった。アンケート結果を次年度につなげていく。</li> <li>・ PTAバザーのメール配信を行い、もちのきPTA便りで提供する制服や体操服等のサイズをお知らせした結果、バザーに関心を持っていただき、売上げが向上した。</li> </ul>
<p>教務</p>	<p>きめ細やかな教育活動</p>	<p>きめ細やかな教育活動を行うための環境整備</p>	<p>共通教材として教育環境のニーズに合った購入計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通教材費の支出項目や金額の見直しを行い、各部必要なものを共通教材で購入できるようにした。これまでの教材費マニュアルの見直し、修正を行った。</li> </ul>
	<p>道德教育の推進</p>	<p>道德の授業づくりと評価</p>	<p>道德教育の視点から12年間の指導段階表や各教科等の年間指導計画を見直す。 評価の方法について周知する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科・領域会で12年間の指導段階表の見直しをすることで、道徳の内容項目に沿った指導計画が明確になり、授業づくりに役立った。</li> <li>・ 各教科等の年間指導計画に道徳の内容項目に沿って(道A~D)と表記することで、各教科との関連を意識し、発達段階に応じた具体的な指導の方法について情報を共有することができた。</li> <li>・ 道徳教育に関する現職研修を行い、具体的な指導例や評価の視点を職員に周知した。今後さらに職員の意識を高めるために掲示等を行うなど改善する。</li> </ul>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価と課題
教育情報	教員の専門性の向上 教員の情報機器活用力の向上	適切な機器の使い方や個人情報の管理方法を周知し、教員が安心して教育を行うことができる環境を整える。 教員がTeamsに触れる機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理や機器の取り扱いについてのマニュアルを整理し、教員用端末からいつでも確認できるようにした。</li> <li>教員の情報機器の更新では、電子掲示板連絡での更新準備やマニュアルの事前配布を行うことで、効率的に進めることができた。また、研修会で機器のトラブル対応を行うことで、通常業務への影響も最小限に抑えることができた。</li> <li>教員にとってTeamsが身近なツールとなり、校外学習等での活用の機会を増やすことができた。今後はより運用しやすい使用上のルール作り等を進めていく。</li> </ul>
研修	教員の専門性の向上 専門性向上のための研修の充実	研修をより進めやすくするための環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度実施した研修は、内容、時期ともに適切であり、次年度も継続する。来年度は、相談支援部の協力を得て自立活動に関する研修を実施する。</li> <li>教育センターに係る研修については、該当教員が各々で申請し受講する流れが定着した。中堅教諭資質向上研修については、本年度反省をもとに研修内容や提出すべき課題と時期が把握しやすいようオリエンテーション資料を見直した。</li> <li>初任者研修のマニュアルを見直し、研修項目一覧を再整備した。いつ、誰が、何を実施するか分かりやすくするように改定したものを、次年度以降運用していく。</li> </ul>
生活指導	激甚災害への対策 激甚災害を想定した具体的な防災対策の強化	地震、火災を想定した避難訓練や引き渡し訓練を実施する。 保有している防災用品を公開し、使用方法を確認したり、実際に使用したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じてより安全な避難場所へ避難できるように、避難場所の設定を二ヶ所とした。次年度以降もリスクの高まりが危惧されている南海トラフ大地震を想定した、より具体的な訓練を実施していく。</li> <li>引き渡し訓練を毎年行っていることで、保護者の中で訓練の意義について周知され、大地震発生時の対処の仕方について学校との協力体制が整ってきた。今後も訓練を継続することで、保護者の防災に対する意識を高められるようにしていく。</li> <li>学校で備蓄している防災用品を展示したことで、保護者と教員間でより現実的な防災対策について検討する機会となった。</li> </ul>
進路指導	積極的な情報発信 進路指導に関する情報発信	進路指導に関する現状を職員や保護者に発信し、理解を深める。 各部のキャリア教育の取組を発信し、他部の取組の相互理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設の福祉事業所や居住地域の福祉事業所見学会の情報を保護者にメール配信し、見学や参加につなげたり、保護者が新設の福祉事業所を進路先に選んだりすることができた。次年度も継続して情報発信に努める。</li> <li>福祉事業所や企業の会報等を職員に回覧し、情報や取組を知る機会を作ることができた。</li> <li>進路に係る職員の研修の一環として、新設の福祉事業所を見学する機会を設けた。募集定員を超えた職員が参加し、その経験を踏まえた支援・指導の在り方について考えることができた。</li> <li>キャリア発達目標リスト作成に向けたアンケートを実施し、小学部から高等部卒業までに取り組んでいる指導内容を集約した。小、中、高と段階的に広がりや発展を目指したい指導内容を周知することができた。今後は教務部と連携し、12年間の系統性の視点から、より有効な活用を検討していく。</li> </ul>
保健体育	発達段階に応じた教育活動 けがの予防と安全管理	視覚的に分かりやすいけがの予防動画を用いて正しい体の動かし方を指導する。 けがの再発防止に向けた情報発信をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>けがの予防の一つとして、ポイントを押さえて作ったラジオ体操動画をもとに教員が正しい体の動かし方を学ぶことで、体の動かし方を意識した指導をすることができた。</li> <li>ヒヤリハットや災害疾病報告からの情報提供とけがへの注意喚起を積極的に行ったことで、けがの件数が減り防止につながることができた。</li> </ul>
保健体育	積極的な情報発信 食育の充実と情報発信	食の全体計画の活用方法及び発達段階に応じた目標を周知する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育の目的や本校の食に関する指導の全体計画の目標を周知したことで、様々な教科で食育に取り組むことができた。</li> <li>給食だよりや掲示で食育の情報を積極的に発信することで、献立募集への保護者からの参加が増えた。</li> </ul>
相談支援	発達段階に応じた教育活動 児童生徒の発達段階に応じた教育活動の推進	大府もちのき版アセスメントの結果や専門家の助言を根拠とした支援・指導の実践と有効性を職員に周知する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大府もちのき版アセスメントに関する職員アンケートの結果からアセスメントの有効性と課題が明らかになった。調査結果は職員間で共有し、より有効なアセスメントの活用について</li> <li>外部専門家による助言を自立活動だよりに掲載し、各部で助言後の支援の改善や成果の実践報告をしたことで、より有効な支援の在り方について知識を深めることができた。</li> <li>教務部とアセスメントの活用や実施について意見交換を行った。進路指導部と連携し、アセスメント結果と卒業生の進路状況を集約し、指導の参考資料を作成し活用することができた。</li> </ul>

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よりよく生きるための道徳教育の推進に向け、各教科等の指導内容において四つの視点による内容項目から関連を整理し、12年間の発達段階に応じた具体的な指導の方法について教職員間で情報共有を図ることができた。</li> <li>・ 外部専門家による研修の機会を増やすなど、教員の専門性向上に努め、児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた支援・指導の充実を図りながらきめ細やかな教育活動を推進することができた。</li> <li>・ 情報量やスピード感を意識した情報発信に努めたが、保護者及び地域のニーズに応え切れていない部分がある。今後、配付文書の電子化を進めていくことを含めて、改善に努めていく。</li> <li>・ 備蓄食の試食や防災物品の展示など、激甚災害への備えの状況について具体的な取組を進めることができた。</li> </ul>
------	---

## 2 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学部・中学部・高等部の一貫性を踏まえ、発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育</li> <li>・ 防災、防犯に関する取組への評価</li> <li>・ 保護者アンケートの分析結果を踏まえた最終評価</li> </ul>
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者アンケートから、学校の取組について概ね評価いただけた。</li> <li>・ ホームページなどの発信と進路情報については情報発信のスピードや量など、地域との連携の発信については「分からない」との回答が多くあり、課題が残った。</li> <li>・ 保護者アンケートをWebによる回答に変更した結果、回収率が大幅に減少した。今後、配付文書の電子化を進めるに当たり、学校からのメールを確実に見ていただけるよう取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
今後の改善方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業後の進路に対する不安やホームページへの保護者の関心の高さを踏まえた教育活動や地域等との連携の発信を心がける。</li> <li>・ 防災、防犯等のマニュアルを整理するとともに、防災物品のさらなる充実を図る。</li> </ul>
その他 (学校関係者評価委員から出された 主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳教育の難しさはあるが、継続して力を入れて取り組んでほしい。</li> <li>・ 防災対策について、訓練が実際を想定して取り組まれている。きめ細やかさと教員の働き方改革の両立の視点をもって進めていくことが大切である。</li> <li>・ 12年間を系統立てて進められている。学校祭での児童生徒の交流場面を見て感動した。こうした様子から教育活動の成果が感じられる。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の構成及び 評価時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成：学校評議員、PTA役員</li> <li>・ 時期：6月及び2月（評議員会、関係者評価委員会）</li> </ul>